

を繰り返すことがあります。このような対応は、子供たちに「まちがった」「先生は聞いてくれない」という意識を持たせることになり、授業は活性化しません。様々な場面にどのように対応すればよいのでしょうか。

何を言いたいのか、発言の意図がわからない子供に

最後までよく聞き、「なるほど、そういう見方もあるね」「うん、それもあ
るね」など、**共感的に受け止める**ようにします。また、「あなたの言いたか
ったことは、～ということなのかな」と**要約してあげ、自信を持たせる**ことも
大切です。それができないときは、「〇〇さんは、どんなふう考えたの
かな」と学級に問い返します。子供たちに問いを共有させながら、子供同士の
共感的理解を促すことにもつながります。

黙ったまま、発言しない子供に

まず教師は、質問の意味が分からないのか、表現したいことが言葉になら
ないのか、一つに絞れなくて迷っているのかなど、**沈黙の意味を考えます**。
次に、「言いたいことが言葉にならないんだね」などと、**沈黙の意味を言い
換えて子供に返します**。子供は、「自分の気持ちを分かってくれている」と、
教師への信頼を高めます。また、教師や他の子供との人間関係の気まずさが
原因となっている沈黙について考えてみることも大切です。

困った発言をする子供に

子供からの質問に教師がすぐ答えられない場合
は、「どんなことからこの質問を考えたのかな」
「先生、うまく答えられないんだけど、あなたは
どう考えているのかな」と返します。教師がわか
らないことは「わからない」と言うことが大切です。立場や面目にとらわれ
ることなく、**素直な自分の気持ちを声や表情に出す（自己開示）**ことが、子
供との信頼関係を深めます。



発言への中傷や非難が多い子供に

授業内容が理解できていないか、自分に関心を引きたい、または何かに不